令和７年３月

相生山の四季を歩く会
古川　善嗣　様

いただいたご意見等については、今後の緑地事業の参考とさせていただくとともに、次の通り回答いたします。

※ご意見のうち、内容について趣旨の類似するものはまとめたほか、原文を一部要約、
　または分割しています。

■第 1 章「都市計画と緑地事業の経緯」について

2　緑地事業の経緯

【意見の概要】

・私たちが相生山というとき、真ん中の都市計画道を考えない。実際、道路はできていない。だからこの外枠の中を相生山緑地と捉えている。実際は一緒にあるのに分けて道路の部分省いたところだけで、計画立てること自体が無理。ふれあうゾーンの中には絶滅危惧種が生育している。（説明会時発言）

・緑地ビジョンは、弥富相生山線の現時点での都市計画を前提とし作成したものです。
・令和元年の「名古屋市総合計画 2023（案）」の議論を経て、弥富相生山線と相生山緑地は切り分けて議論することとなりました。その後策定した総合計画 2023 においては「相生山緑地事業の推進」を掲げ、都市計画道路・都市計画緑地の 2 つの都市計画を前提として相生山緑地の基本計画（緑地ビジョン）の策定に向けて、それぞれで検討を進めてきました。一方で、弥富相生山線と相生山緑地は互いに隣接しておりますので、密接に関係する事項では相互に情報を共有し、今後、整合をはかっていきます。

■第 2 章「相生山緑地の現況と取り巻く状況」について

1　自然環境

【意見の概要】

・調査データが古く、このデータでものごとを判断するのはよくない。（説明会時発言）

・整備に際しては、緑地ビジョンをふまえながら当該区域の自然環境を調査してまいりたいと考えています。

■第 3 章「市民等の意見」について

2　市民アンケート

【意見の概要】

・説明動画で川が流れるようすがあるなどアンケートが事実とは違った内容でとられており、アンケートのやり方が誘導しているというふうに受け取った。もう一度アンケートとり直していただきたい。（説明会時発言）

・市民アンケートは、弥富相生山線、相生山緑地の両方について、同時にお聞きする内容で行っており、ご指摘の説明動画は弥富相生山線に係るものです。動画の内容はイメージであり、沢があることを視覚的にわかりやすく表現したものです。
・市民アンケートは、広く市民の意見を聞くことを目的に実施したものです。

■第 4 章「基本的な考え方とめざすべき姿」について

1　緑地ビジョンの基本理念と基本方針

【意見の概要】

・そこでしか生きられないものの為の森であって欲しい！これらは"手入れ"と称する伐採により異変が起きています。森を都市化する必要が、どこにあるのでしょうか！？（ご意見用紙）

・相生山は、身近に豊かな自然が残っている所です。土の中、地表、空中全ての物がかみ合って相生山があります。施設、道路を造る為、重機を入れたら、ドミノ倒しの様に今の相生山が壊れていくと思います。手を付けずこのままにしておく事を希望します。（ご意見用紙）

・「なごやネイチャーポジティブ宣言」をして脚光を浴びていたのに、何を考えているんでしょうか？国も自然共生サイト認定などで 30ｂｙ30 を推進しているのに理解できません。（ご意見用紙）

・全体が大事な自然なのだからまとめて「守る！」だ。（ご意見用紙）

・コンクリートやアスファルトで覆われた便利さなんて、もう要りません。むしろ土や木で覆われた自然に戻すべきです。　それこそがこれからの緑地事業の今後の仕事ではないかと思います。（ご意見用紙）

・相生山は公園ではなく、自然の森林として残してほしい。街に居ながら山が体験できる貴重な場所です。（ご意見用紙）

・ふれあう広場のように開かれると自然がこわれそう・・・一度破壊されると元に戻すには何年もかかると思う。（ご意見用紙）

・遊具で遊ぶなら歩いて数分で山根公園に着きます。私たちの名古屋市が"この森は敢えてこのまま残す"という勇気ある決断をすることを期待しています。（ご意見用紙）

・相生山緑地の自然が守られたのは、120 ヘクタールの塊が残っていたからだと思う。それが分断されると、外側から浸食され森がなくなるし、生物も生きていけないと思う。このビジョン案を見ると、結局道路もあるし、ゾーンを 3 つに分けている。分けたところから、乾燥化したり、水がなくなったりするのではないかと思う。（説明会時発言）

・他の公園と同じにしない。土地を細切れにしない。芝生広場を作らない。遊具は置かない。守ってよかった名古屋自慢の緑地へ。どこにでもある人工の公園にして欲しくないです。手を加え続け、剪定や刈り払われた緑地では 5 年、10 年経っても景色は変わりません。相生山の森には色々な木があり変化し続けています。長い時をかけて大きな変遷、進化を見守られるよう願います。（ご意見用紙）

・自然の捉え方について人により温度差がある段階で、自然との共生と言っても、それぞれ思うところが違う。本年度中に計画の案を取るのは早急ではないか。相生山の利用について考え、それで自然と人との共生というふうに言っているけれど、それは間違っている。都心からほどなくして来られるところに広がる大きな樹林地をどうやって残すのかということが今の課題である。（説明会時発言）

・「自然と人が共生」とは、人が自然に手を加えて破壊するとき使う、自分に都合の良い言い訳です。自然は人との「共生」など欲していない。（ご意見用紙）

・散策域では生物たちや人間にとって居心地がいいことが究極の目標です。決まった方法はありませんので生物たちと語り合って楽しく進めていくのがいいと思います。（ご意見用紙）

・相生山緑地は、面積が 120.1ha に及ぶ広大な緑地であり、現況の土地利用や地形は場所によって異なります。生物多様性の保全、雨水の浸透・貯留、植物の蒸発散による気温上昇の

抑制、Well-being の向上、自然と人とのふれあいの場、交流やレクリエーションの場、防災性の向上など、緑地に期待される多様な機能の発揮のために、現況を捉え、３つの基本方針「つなぐ」「まもる」「ふれあう」を掲げています。自然と人が共生する相生山緑地の実現に向けて、自然環境を保全し生物多様性の損失を食い止めつつ自然に興味を持ち理解を深めるきっかけとなる場として「ふれあう」「つなぐ」の区域は必要と考えています。
・ゾーンによって植生遷移のステージが異なる様々な樹林地の姿とすることで、緑地全体としての生物多様性を高めていきたいと考えています。
・相生山緑地の大きな特徴は、尾根筋である３つの台地と２つの大きな谷を含む起伏のある地形と、樹林地、農地、宅地が混在する土地利用であると捉えています。整備に際しては、既存の地形と土地利用を生かすことで地形の改変を抑え、自然との共生をはかった相生山緑地らしい姿を目指していきたいと考えています。

２　ゾーニング

【意見の概要】
・緑地内のデータ（植物、動物、昆虫、貝類、菌類）に基づくゾーニングをもっと細かくするべきと思う。（ご意見用紙）

・緑地に期待される多様な機能の発揮のためにゾーニングを行いました。ゾーニングは、緑地の現況の土地利用や地形から３つのエリアを分けた後、エリアごとの基本方針の展開イメージに基づき、現況（自然環境、土地利用、歴史資産・交流・市民協働）の特性に応じ分けています。
・各ゾーンの主要施設配置イメージ図は、現時点でのイメージであり、整備に際しては改めて検討します。

３　整備（動線・施設）と管理に向けた考え方

【意見の概要】
・変な構築物、人工の工作物はつくらないでください。作るとしたら、双子池口など外周道路にトイレを 1 か所お願いします。（ご意見用紙）
・何もしないで今のままにして欲しいけれど、どうしても何かしないと終われないと言うのであれば・・・人が集まり寛げるカフェがあってもいいかな？（ご意見用紙）
・手の入ってない木々のところのほうが、沢山光っているという現象。又この 2、3 年野鳥がめっきり見られなくなりました。実のなる木が切られ松林になっています。かけがえのない自然を、あまりいじらないで、切におねがいします。（ご意見用紙）
・樹林地が人の手によって改変されています。木が切られたり折られたり、草地が畑にされたりしています。鳥や昆虫も減っているし、地面も乾燥気味になってしまいました。今直ぐやめないと、たいへんな事になると思います。やめれば 4～5 年すれば生き生きしてくると思います。ぜひそのようにしてほしいです。（ご意見用紙）

・施設については、基本方針や展開イメージに基づくものとします。主要施設配置イメージ図は現時点でのイメージであり、整備に際しては改めて検討します。既存の地形と土地利用を生かすことで地形の改変を抑え、環境負荷の低減、景観への調和への配慮をしたものとするなど、自然との共生をはかった相生山緑地らしい姿を目指していきたいと考えています。
・植物管理については、植生遷移や竹林の拡大の現況を場所ごとに確認しながら「なごやの森づくりガイドライン（令和７年３月）」に基づき、緑地全体としての生物多様性を高めつつ目標とする樹林の姿を定め、適切かつ持続的な管理を推進していきます。

■第 5 章「今後の進め方」について

1　取組予定

【意見の概要】

・このビジョン実現に税金を何百億円つぎ込むのでしょう。このままで何もしなくていいです。一銭もかかりません。（ご意見用紙）

・計画に予算的な裏付けが出てこない。予算や期間を出して、市民に問わないといけないのではないか。（説明会時発言）

・現在、「長期未整備公園緑地の都市計画の見直しの方針と整備プログラム（第 2 次）」に基づき事業を進めています。今後も、効果的かつ効率的に事業を推進してまいります。また、緑地ビジョンを踏まえ、今後、事業着手時期等の見直しを検討します。 ・緑地ビジョンは、今後の緑地事業の基本的な考え方と目指すべき姿をまとめたものであり、事業費や事業期間については、算出しておりません。

2　実行体制

【意見の概要】

・これからみんなでやっていこうと言いつつ、相生山の中で名古屋市と連携をして活動する市民団体が説明会に意見交換に来ていないことが残念である。（説明会時発言）

・いろんな方からの提案を踏まえて、ということについて、提案者は、相生山のご存じの方か。机上での設計だけで提案されていることなのか。技術を持っている方という提案もあったが技術はいらないと思う。自然、土の上を歩くことがまず基本であり、基本を守って、提案してくださるのか。ただ、机上のゾーン計画を見て、提案されるのか。そこが不安である。（説明会時発言）

・普段森に入らない人でも森の風を、季節の移ろいを・・・森はこんなに楽しく贅沢な所だと体感してもらえるかな？子供から大人まで森の楽しさを教えるインタープリターを置く。（ご意見用紙）

・便利さばかりを優先する人間の意見だけてなく、しがらみのない自然の代弁者、土壌、生物、気象学者、未来を考える子供達の意見を取り入れ議論してほしいと思います。（ご意見用紙）

・「自然と共存」する心地良さを求めて、どの程度まで手を入れることが許容されるものか。じっくりと科学し意見交換し、研究していく必要があると考えます。（ご意見用紙）

・相生山緑地は広大な緑地であり、また市民の関心も高く、事業の推進には行政だけでなく、多様な主体がパートナーシップをはかることが重要と考えております。市民にとって望ましい形で相生山緑地があり続けるよう市民等の意見をお聞きしながら、緑地ビジョンの基本理念「自然と人が共生する相生山緑地」の実現に向けて、多様な主体によるパートナーシップにより取組を進めていきます。

■その他

【意見の概要】

・交通渋滞、緊急車両、避難場所等の問題は相生山を利用しなくても、必要とあらば他の解決方法が必ず見つかるはずです。（ご意見用紙）

・相生山横断道路は不必要です。メリットはほとんど無く、ディメリット大です。（ご意見用紙）

・野並車庫（鳴子北駅）信号で朝 8 時頃、車が渋滞しているのを見たことがありません。道路は新たに作る必要はないと思います。予算を使い切る為の道路は作らないでください。名古屋市の水道管は耐用年数は大丈夫ですか？数年前我が家の近所でも道路陥没が起きました。とても不安です。（ご意見用紙）

・弥富相生山線につきましては、様々な価値観や想いがあると認識しています。

・令和３年の「学術検証懇談会」では学識者より「地域の方々にとって必要な形で使えるようにすると良い」「現実的な解として折衷案が必要」など意見を受けて、本市としても折衷案が必要と判断し、検討を進めているところです。

・折衷案では、緑地の自然環境に十分配慮し、防災や安全、地域間のつながりや自然とのふれあいなど、期待されている効果を市民の皆様に如何に還元していくかということが大切であると考えています。

・折衷案のつなぎ方や使い方について、これまでの検討経過や結果、地域の方々や関係者の方々の意見をふまえて、とりまとめていきたいと考えています。

名古屋市緑政土木局緑地事業課